

認知症とともに班 活動報告

三重県作業療法士会では、①知識と技術の研鑽の場づくり、②OTが地域に出て活動するための仕組みづくりを目的に、2017年度から認知症作業療法推進委員会（現、認知症とともに班）が発足し活動している。2021年度から活動目標を「認知症フレンドリー社会を目指す」と掲げ、下記の活動を実施している。2023年度はより地域実践ができる人材を育成するとともに、他団体や企業と協力できる関係づくりを行ってきたい。

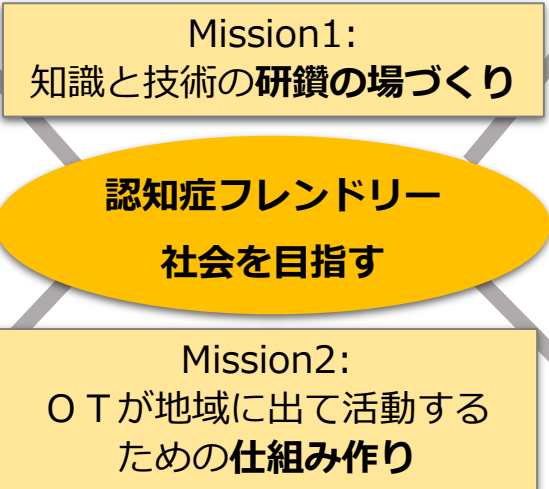
① 認知症フレンドリー社会：買い物・スーパーに焦点を当てる

- 2021年度は北九州大学の仙波先生を招き「認知症フレンドリー社会について考える～誰もが買い物を楽しめる社会へ～」をテーマに特別講演を開催（16名の参加）。また認知症とともに班の取組紹介として、北勢地区から「他市町から学んだことと北勢地区の現状」、中勢地区から「認知症当事者と高齢者の買い物に関する現状と課題」、南勢地区から「地元スーパーとの情報交換会から得られたこと」を報告した。
- 2022年度は当事者班と企業班に分かれ活動。企業班では移動スーパーへの聴き取り、スーパーの店員へのアンケート作成を実施。当事者班では県内のOTが携わっているスローショッピングにて当事者とともに買い物をを行い、生活行為工程分析表（PADA-D）を用いて、分析を行った。研修では、伊勢市でスローショッピングをしている山川伸隆医師より講演、その後ともに班の活動報告を実施した（25名の参加）。
- 2023年度は当事者班と企業班に分かれ、実際に企業へのアンケート調査を実施し、分析、スーパーと協働できる関係を構築していく。

② スキルアップ研修会

2021年度から三重県地域医療介護総合確保基金事業を活用。「施策に基づいて創出されている地域の多様な資源・取組についての知識の普及」「地域生活を視野に入れた臨床支援を展開できるスキルの研鑽」「行政等と連携して地域の資源に参画し、専門性を発揮できるスキルの研鑽」を目的に、地域における認知症リハビリテーションの視点と地域における実践報告を実施。

2020年度：IADLの工程分析と介入
 2021年度：地域実践
 2022年度：予防事業
 2023年度：当事者団体や企業連携 本人発信支援事業



③ 認知症カフェ 回想法勉強会

2022年度は県内の認知症カフェより「認知症カフェの運営支援」で43回、「当事者における交流支援+人材育成」で37回依頼があった。2020-22年度に実施した回想法勉強会では延べ257名が育成されたが、地域実践に至っている方が少なかったため、2023年度はメモリーカフェ「日永」と連携し、実習できる形を構築。座学で年3回「認知症カフェ・回想法勉強会」、座学受講者のための実習を毎月実施していく。

④ 関係機関との連携

- ・認知症の人と家族の会：OT2名が若年のつどいの世話人を担当（うち1名は代表）
世界アルツハイマーデー記念講演会ではスタッフとしてOT数名参加
- ・三重県：2021年度OT2名、2022年度OT2名がチューターとなり、県内市町のチームオレンジ発足・育成を支援
- ・四日市市：2022年度より依頼のあった認知症カフェにOTを推薦し、運営支援。チラシ（OTの役割）作成。
- ・メモリーカフェ「日永」：2016年度よりOT数名が参加。開催前・当日・終了後にOTの視点で関わっている。
- ・みはらぼ（就労・生きがい支援）：2022年度よりOT数名が参加。洋裁における支援や人材育成で携わる。
- ・RUN伴+四日市：後援依頼をいただき、OT数名が実行委員として参加。当事者、他団体、企業と協力連携。

